

シンポジウム3 外来がん薬物療法における薬剤師の役割と貢献

外来がん薬物療法における保険薬局の取り組み

総合メディカル株式会社

そうごう薬局天神中央店 下川友香理

2011年11月より、近隣の保険薬局（以下薬局）とともに主応需先である済生会福岡総合病院（以下病院）とのがん関連における薬薬連携を進めてきた。合同で勉強会を行い、病院薬剤部と各薬局のがん薬物療法施行患者への支援内容をお互いに把握し、指導内容を統一化し、その後は症例検討とディスカッションを重ねた。緩和ケアについては院内の麻薬導入時の方法、疼痛評価シート、がん疼痛マニュアルを共有している。また、情報共有のツールとして薬薬連携シートを作成し運用している。

2012年より病院ホームページ上にごん種ごとのレジメンが掲載され、処方箋にもがん種とレジメン、服用開始日が記載されるようになった。それによって、薬局においてもレジメンに応じた副作用確認・予防対策への支援が可能となった。

私たちは、さらなるケアの個別・最適化のためにはより多くの情報が必要と考え、窓口対応時に患者から聴取する標準確認項目（がん種、病期、PS、手術の有無など）を構築した。初回来局時に患者から聴取を行い、処方鑑査に利用し、その後は患者モニタリングにより副作用発現状況の確認と予防対策についての指導、適宜適切な処方提案のためのツールとして活用している。

アドヒアランスの維持や副作用軽減については、以上のような取り組みにて支援することができるようになった。さらに、がん患者のもつトータルペインにも着目し、支援を行いたいと考え、毎月1回「がんカフェ」を開催している。がん患者と薬剤師が自由に会話することで、がん患者は様々な思い・不安を語り、精神的苦痛やスピリチュアルペインの一部を解消する場となっている。

今回はこれらの取り組みについて紹介する。

(746/800)